

## 陳情書

### 太宰府市中学校給食に関する陳情

#### 1、 要旨

中学校給食について自校方式での実施を求める陳情

#### 2、 理由

先般の12月市議会において、市長は中学校の学校給食をデリバリー方式でおこなうロードマップを明示されました。貴議会提案のデリバリー方式は、現在実施しているランチサービスの延長線にあり、これを「完全給食」と呼ぶには疑問があります。この方式は、委託業者任せで調理場が学校と分離され、栄養管理者の配置が義務付けられているようですが学校現場との連携が難しく、実際に食べる生徒の声が届くかどうか不明です。他市町村の事例でも、多くの残飯がでていることが報告されています。現在の太宰府市の小学校給食はとてもおいしいと好評で、食育推進の学習も高い評価を受けています。こうした素晴らしい小学校の自校方式があるのに、コストと時間のみを比較検討され不確実なデリバリー方式を導入するのは全く納得できません。保護者、生徒、そして市民は「給食」というと小学校の自校方式の給食をイメージしているのではないのでしょうか。またデリバリー方式であってもその導入には、それ相応の費用がかかる見込みです。

自校方式には、さまざまなメリットがあります。①配送コストが不要であること、②衛生管理が行いやすく万が一食中毒が発生しても被害を一校で食い止められること、③給食を適温で提供できること、④学校独自のメニューが作れること、⑤栄養教諭と学校との連携が密に図られることなどがあげられます。

さらには、自校方式には大きな可能性があります。まずは防災・減災の観点です。厨房設備が市内に分散していることは、それだけリスクを分散できます。次に、地域福祉の観点です。中学校区を単位とする地域包括ケアシステムの中で、これまで以上に学校と地域福祉の連携が求められています。将来的には、地域住民へのランチの提供、住民と子供たちの交流、また夏休みなどのランチサービス、一人暮らし高齢者への宅配サービスなどにもつながっていくでしょう。

そして、食は文化そのものです。日本人は歴史と風土の中でさまざまな食文化を創り出してきました。特に、太宰府は古都1400年以上の歴史ある町なのです。だからこそ食育、健康推進の立場から、地産・地消を取り入れた学校給食が望まれます。健康の基本は「食生活」にあります。育ち盛りの中学生への健康教育は、こどもたちの健康増進と将来の医療・介護費用の削減につながります。現在の単純なコスト比較ではなく、未来への投資こそが求められています。これからの日本を背負うこどもたちに健康で文化的生活を育めるようにするためにも、自校方式が最適と考えその実施を陳情いたします。

また、中学校給食の導入につきましては、永年の太宰府市の懸案事項でもあることから、一般市民の関心も高いものがあります。残念ながらロードマップには、一般市民向けの説明会や情報交換・提供の機会が記載されていません。なぜ市はデリバリー方式が望ましいと考えているのか、是非一般市民向けの説明会の開催を市長に対してご提案いただければ幸いです。

平成29年2月15日

太宰府市議会議長 橋本健殿

